

別府市議会 100周年記念特別対談
吉永栄治氏（全国初の車椅子利用者市議会議員）
× 加藤信康議長（第67代別府市議会議長）

全国初の車椅子利用者の市議会議員として3期にわたり活躍された吉永栄治氏に当時の様子を振り返っていただくとともに障がい者を取り巻く環境の違い、現在と昔の議会の変化、今後の議会に期待すること等について、加藤信康議長と対談を行いました。

（加藤信康議長/以下：加藤議長）

現在、議長をしております加藤です。本日は、ありがとうございます。私は以前、市の職員でしたので、吉永さんが議員でいらっしゃったときも覚えております。吉永さんは、おいくつになられましたか？

（吉永栄治氏/以下：吉永氏）

こちらこそわざわざお越しいただきありがとうございます。私も84歳になりました。

（加藤議長）

そうですね！お元気そうで何よりです。当時、一職員であった私がこうしてお話を伺うというのは何か感慨深いものがあります。

今年4月に別府市は市制100周年という節目の年を迎え、別府市議会も6月に100周年を迎えました。今回、議会100周年の歴史を振り返るにあたって、吉永さんは欠かせない方ということでお伺いさせていただきました。

今日は、当時の議会の様子など貴重な経験談を伺えたらと思いますので、よろしくお願いします。



加藤信康議長

（吉永氏）

私は、もともと長崎県の生まれで、福岡で働いておりました。ところが25歳のときに脊髄症を発症して両足が不自由になってしまい、そこで働くことができなくなってしまったんですね。あの頃は、まだまだ障がい者という理解がなく社会参加もできないことから病人のような扱いで、しばらく家に帰っていたんですが、「これじゃあいかん」ということで、今のようインターネットもない時代ですから、いろいろパンフレットを取り寄せたりして調べる中で「太陽の家」というところがあることを知り、別府に来たわけです。

（加藤議長）

当時はまだ、社会参加の面において身体障がい者に対する社会の受入や人々の理解がまだまだ十分とは言えない頃だったわけですね。

そして別府に来られてから、どのような経緯で市議会議員へ立候補ということになったのですか。

(吉永氏)

太陽の家の事務所の職員になる前は、3～4年授産訓練生ということで太陽の家に入所しました。

その後、職員になってから2年目で選挙に出ることになるわけですが、それまで選挙とかいうものには興味もなかったのですが、障がい者になって初めて知るのが、買い物するにもどこへ行くにも満足に歩道も通行できないとか不自由なことばかり目の当たりにするんですね。



吉永栄治氏

(加藤議長)

まだまだ歩道の整備も十分でない中、バリアフリーといった概念が一般的に浸透していないころでした。

(吉永氏)

それで自治会の集まりとか自治会長さんとかにも相談したり、それこそ行政にも陳情したりいろいろ社会運動をやったんですが、これが全く進まない(笑)

もう全然ダメなので、誰か議員になればということになって、「会長、あんたしかおらん」と私にお鉢が回って来たんですよ。

(加藤議長)

そのときの会長というのは、何の会長をされてたんですか？

(吉永氏)

太陽の家にある「むぎの会」の会長(当時、吉永氏は太陽の家の企画広報室長も務められていた)でした。選挙で出馬するといっても何をしたらよいのか分からない私を多くの方が手伝ってくれて、東京からも応援隊が来たり、選挙そのものがお祭り騒ぎでしたよ。

※ 「むぎの会」：1973年(昭和48)に発足した太陽の家の自治親睦組織。

(加藤議長)

そして、全国初の車椅子市議として見事に当選されたわけですね。昭和何年の選挙だったのですかね。

(吉永氏)

昭和50年(1975)の選挙です。当時、議員が定数36名で、48名が立候補し、私は18番目で当選しました。34歳のときです。



吉永氏市議当選を伝える新聞記事(今日新聞提供)

(加藤議長)

脇屋市長の時代ですね。当時は、全国でも初めての車椅子利用者の市議ということでご苦労も多かったんじゃないですか。

(吉永氏)

あの頃は、移転前の旧庁舎の時代で、議会は3階にあったので、エレベータもなく、これで上がっていたんですよ。車椅子のまま階段を上り下りできる器具でドイツから取り寄せたものでした。そもそも市役所の玄関にも階段がありましたから。



車椅子階段昇降器具を使う当時のようす(吉永氏提供)

(加藤議長)

これは、今となっては貴重な写真ですね。私が職員のときにすごく印象に残っています。

そして、現在の庁舎移転の際にも議員として活躍されていたのですが、吉永さんの功績は非常に大きかったのではないのでしょうか。



吉永氏所蔵の写真で当時を振り返っていただいた

(吉永氏)

当時は、千代町に市役所があつて、これが現在の場所に移転する計画ということでものすごい反対運動も起こったりして大変でした。

(加藤議長)

市役所の周りにはお店も多くあり、職員の利用者も多かったでしょうから、人の流れが変わることに対して、賛否いろいろだったんでしょう。

それでも、庁舎移転にあたって吉永さんが議員としていらっしゃったことが、議会棟がバリアフリーになって、おそらく議場は全国で一番早くバリアフリーになったのではないのでしょうか。

(吉永氏)

そうですね。庁舎を建て替えるというのは大変なことです、現在の庁舎を設計した方は先見の明があったと思います。外国の事例も見て来られた方だった。

(加藤議長)

太陽の家もそうですが、亀川は福祉の町ということで日本全国から議員の視察があります。議場が早くからバリアフリーであることを説明すると皆さん感心されます。

その他、印象に残っているエピソードが何かありますか。

(吉永氏)

私が全国初めての車椅子市議ということで、とにかく皆さんに可愛がっていただきました。

協屋市長や平松県知事も車椅子の市議会議員ということで珍しいもんですから、声をかけていただいたり、いろんな会議に同席させてもらったりしました。私も34歳で車椅子マラソンをするくらい元気バリバリでしたので。

(加藤議長)

車椅子マラソンもされていたのですか。

(吉永氏)

あれはそもそも私たちが始めたことですから。それを平松知事らが趣旨に賛同し、大きな大会になっていったわけです。

脇屋市長は面白い方だったですね。その後、市長になった井上さんは当時、市議で一緒にしたし。視察なども全国いろんなところに連れて行っていただきましたし、いろいろな経験をさせていただいたことを覚えていますよ。

私はお酒は飲まないのですが、毎晩のように夜11時ごろまで別府の夜の町をフラフラ出かけてました。いろんなお店へ行き、私と会話してもらうことで、少しずつ社会を変えていくということをやっていきました。

(加藤議長)

現在の別府市の福祉の礎となるような活動を続けていただいたことは本当にありがたいことです。

そして、3期務められて引退されたわけですが、それには何か理由があったのですか。



吉永氏引退を伝える新聞記事（大分合同新聞提供）

(吉永氏)

市議は3期、46歳までで引退しました。もともと政治にあまり興味がなかった議員としては市議は3期で十分で、これ以上するなら上の県議会を目指す、上の仕事をやらないと意味がないと思っていましたので。引退を決意したのは太陽の家の中村裕先生が亡くなられたということもあります。

※ 引退後は、太陽の家サNSTOA店長のほか、九州車椅子バスケットボール連盟会長等を務める等、障がい者の社会参加、福祉の現場で活躍された。

(加藤議長)

吉永さんが全国初の車いす市議となられた後、全国でも障がい者の方が議員になられるというケースが増えてきましたが、別府市でその後いらっしゃらないという状況は残念な気がします。

(吉永氏)

そうだね。私の後、誰が出ても行けるように議場も傍聴席も整備したのにな。

(加藤議長)

それでも、傍聴席も車いすで来ることができますが、他の障がい者の方やお子さん連れの方等、議会傍聴しやすい環境にはどうするかで、傍聴席に助聴器具の購入や大型ディスプレイを設置して字幕表示をしたりすることができないか等の協議を議会で行っているところなんですよ。

(吉永氏)

議員もタブレットで予算書とかの資料も冊子じゃなくなったんでしょ。

(加藤議長)

そうです。新しい議員も入ってきて、A I とか S N S とかに長けているので、議会もいろいろ変革期を迎えている。

(吉永氏)

現在、議員数は？

(加藤議長)

25名です。常任委員会も4つから3つになりました。

(吉永氏)

私のときから11人も減ったんですね。

議会も傍聴に行かなくてもテレビやインターネットで見れる時代になった。

(加藤議長)

そうですね。議会もホームページでいろいろな情報を提供しています。また以前からの議会だよりもありますし、今回、吉永さんには100周年記念号でメッセージをお願いさせていただきました。

(吉永氏)

議会は、テレビや議会だよりで拝見していますよ。

私が議員を引退してから、太陽の家を通じ、行政ともいろいろな話をしながら、残せるものは残してきました。現在の長野市長も太陽の家の行事など、よく来ていただいているようで、

よい関係が築けていると思います。

議会も100周年の節目の年を迎えたということで、これからも別府に住むあらゆる人たちが住んでよかったと思う別府市づくりに向けて、議員の皆さん方にはぜひ頑張ってもらいたいと思います。

(加藤議長)

本日は、有意義な時間を過ごすことができました。

これからも健康に気を付けていただき、ますますご活躍されることを願っています。

今後の議会の動きにも関心を持っていただけると幸いです。

ありがとうございました。



対談後に記念撮影